

# 第 3 回

## 核都市広域幹線道路

(埼玉新都心線～東北道付近)

## 地元検討会資料

令和7年8月4日

大宮国道事務所

## 【報告事項】

1. 第2回(前回)地元検討会の概要 .....	2
2. 第2回(前回)地元検討会を踏まえた報告 .....	4
3. 「課題・効果の把握」について .....	6
3. 1 計画検討の進め方 .....	6
3. 2 核都市広域幹線道路の課題・目的 .....	9

## 【審議事項】

4. 第3回地元検討会の審議事項 .....	15
5. 「複数案の提示」について .....	17
5. 1 複数案(ルート帯・主たる構造)の設定と評価項目の設定 .....	19
5. 2 今後のコミュニケーション方法(案) .....	31
6. 今後の検討会の進め方、スケジュール(案) .....	43

# 1. 第2回(前回)地元検討会の概要

# 1. 第2回地元検討会の概要

## ■第2回地元検討会の概要

- 開催日 令和6年3月7日（木）
- 議事内容
  1. 「課題・効果の把握」についての報告事項
    - ①コミュニケーション活動の実施結果について ②意見要旨と対応案について
  2. 「課題・効果の把握」についての審議事項
    - ①計画検討の進め方（確定案）について ②核都市広域幹線道路（埼玉新都心線～東北道付近）の課題・目的（確定案）について
  3. 今後の検討会の進め方、スケジュール（案）

## ○第2回地元検討会での主なご意見と対応状況

主なご意見		対応状況
計画検討の進め方	・各検討段階でどのような情報提供をされるのか具体的に示せるとよい。	・今後の「複数案の提示」や「概略計画の決定」における、コミュニケーション方法を明示しました。（P.7に記載）
	・沿線住民等の関心が高い見沼田圃の自然環境について、しっかりコミュニケーションを図っていくこと。	・引き続き、見沼田圃に係わる関係機関や関係者とコミュニケーションを図っていきます。
	・いただいたご意見がどの検討段階で反映されるものなのか提示できるようにするとよい。	・今後のオープンハウスやパネル展等のコミュニケーション活動にて、お知らせしていきます。
	・意見要旨と対応案について、みなさまにわかりやく情報提供できるよう工夫するとよい。	
課題・目的	・都市構造の強化といった視点を入れるとよい。	・「課題・目的」に「拠点間連携」の文言を追加し、反映しました。（P.10に記載）

## 2. 第2回(前回)地元検討会を踏まえた報告

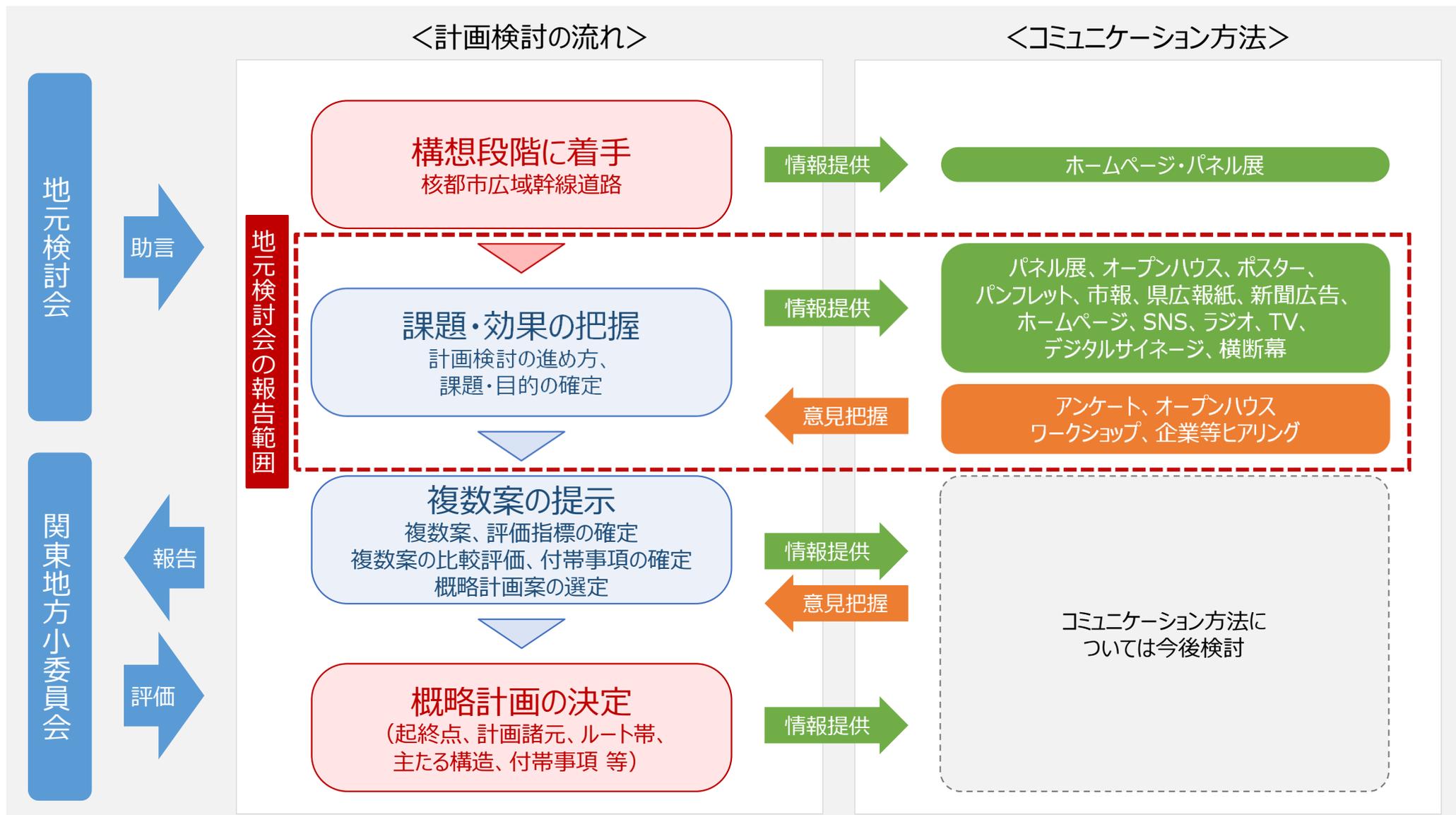
## 2. 第2回地元検討会の報告

○第2回地元検討会の審議事項について報告する。

【報告事項】 課題・効果の把握 : 計画検討の進め方、核都市広域幹線道路の課題・目的

### ■地元検討会の報告の範囲

第2回地元検討会資料の再掲



### 3. 「課題・効果の把握」について

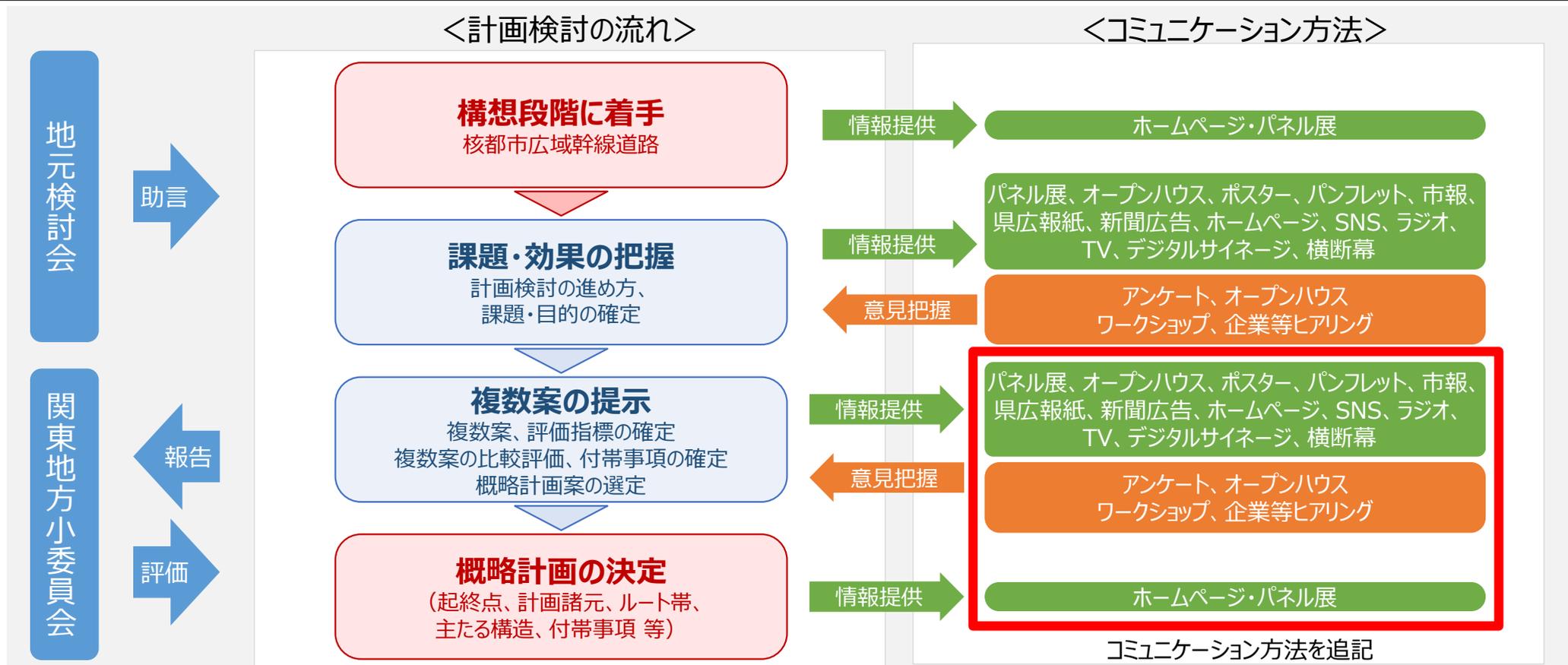
#### 3. 1 計画検討の進め方

# (1) 計画検討の進め方 基本的事項

## 計画検討の進め方(基本的事項)

第2回地元検討会資料に複数案の提示後以降のコミュニケーション方法を追記

- 核都市広域幹線道路の計画検討は、「課題・効果の把握」、「複数案の提示」の順に検討を進め、検討成果を確定する。「複数案の提示」においては、「課題・効果の把握」における確定事項を前提とする。
- 各検討では、様々な方法で地域のみなさまとのコミュニケーションを重ね、地域の意見や地元検討会からの助言を踏まえながら検討する。
- 計画検討では、核都市広域幹線道路の概略計画の基礎となる概略計画案を定める。
- 概略計画案を基礎としつつ、社会資本整備審議会道路分科会関東地方小委員会の審議を経て概略計画を定める。概略計画は、起終点やルート帯(数百メートル程度の幅を持ち、道路用地境界を定めない)、付帯事項などを定める計画であり、都市計画(1/2500の図で示される詳細な計画)の前提となる計画である。



## (2) 計画検討の進め方 細目

第2回地元検討会資料の再掲

### 計画検討の進め方(細目)

**計画検討の進め方（基本的事項）に加え、以下の点にも配慮して概略計画案の検討を進めるものとする。**

#### ○ 情報提供の方法

埼玉県圏央道以南地域の交通課題等を踏まえた核都市広域幹線道路の整備の必要性、検討対象区間選定の考え方、計画検討のスケジュールや進捗状況等については、ポータルサイトや各道路管理者のホームページ等を通じて幅広く情報提供を行う。

#### ○ コミュニケーションの対象者

コミュニケーションする内容に応じて、沿線地域の内外住民、道路利用者、年代など、偏りなく様々な立場の意見を取り入れられるようにする。

#### ○ 意見の扱いと決め方

地域のみなさまやご利用される方々との多重多層のコミュニケーションを通じて、丁寧な情報提供と丁寧な意見の把握を行うことを前提に、関心事を深く捉えて創造的な問題解決を図るように努めるとともに、計画検討事務局において概略計画案を確定し、社会資本整備審議会道路分科会関東地方小委員会の審議を経たうえで、国土交通省にて概略計画を確定する。

#### ○ 検討体制

事務局である国土交通省大宮国道事務所・埼玉県・さいたま市は、地域のみなさまやご利用される方々と連携・協力して、概略計画案を確定する。

#### ○ 概略計画案の選定方法

複数案の提示では、ルート帯・主たる構造の複数案と、複数案を評価するための評価指標を確定する。また、確定したルート帯・主たる構造の複数案を比較評価する。複数案と評価指標を検討する際には、技術的な制約や周辺への影響等を踏まえる他、地域のみなさまやご利用される方々のご懸念・ご期待などのご意見にも配慮する。

#### ○ 事業の進め方

決定した対応方針および概略計画については、評価結果やその経緯等と併せ、速やかに公表を行う。

## 3. 2 核都市広域幹線道路の課題・目的

# (1)核都市広域幹線道路の課題・目的について

○課題・目的は、第2回地元検討会でのご指摘や複数案および評価項目案の検討の視点を踏まえて、再整理。

- 【9. 効果発現】は、【1. 渋滞】～【7. 観光】の内容に含まれるため、削除
- 【3. 企業進出・人口増加】は、「拠点間連携」の視点を追加するため、【3. 企業進出・人口増加・拠点間連携】に修正
- 複数案を検討するうえで、【9. 沿道家屋や周辺施設等への影響】と【10. 経済性】が必要となったため追加

## 【1. 渋滞】

幹線道路や**主要道路**の交通渋滞を緩和して移動の信頼性を高めるとともに、走行性を向上させる

## 【2. 事故】

幹線道路や生活道路の抜け道等から交通分散を促し、交通事故を減少させる

## 【3. 企業進出・人口増加・拠点間連携】

**大宮地区・さいたま新都心地区と美園地区の連携強化**や、東北道等から企業等が集積する地域へのアクセス性の向上により、企業活動を支援する

## 【4. 生活環境】

沿線地域の抜け道交通を減少させることにより、安全性の向上、生活環境の改善を図る

## 【5. 災害】

豪雨等の災害発生時における救援活動が円滑に行えるよう、緊急輸送道路ネットワークの形成や代替機能を図る

## 【6. 医療連携】

さいたま市内の高次医療施設へのアクセス機能の強化により、円滑な救急搬送を支援する

## 【7. 観光】

**さいたまスーパーアリーナや埼玉スタジアム等の観光施設へのアクセス性を高めること**により、観光産業を支援する

## 【8. 営農・自然環境・景観】

**見沼田圃をはじめとした沿線地域の農業の営みを育む**とともに、歴史的な遺産や自然環境、風致的に維持すべき景観に配慮する

## ~~【9. 効果発現】~~

~~交通課題解消や地域支援等、最大限効果を発現させる~~

## 【9. 沿道家屋や周辺施設等への影響】

事業による沿道家屋や周辺施設等への影響や工事中に特に配慮すべき事項等を確認する

## 【10. 経済性】

事業費を確認する

## (2) 課題・目的と対応案の関係について

- 第2回地元検討会において、地域のみなさまからのご意見(意見要旨)への対応案(種類c:課題・目的に反映すること)と「課題・目的」の関係を整理。
- 今回、第2回地元検討会でのご指摘や複数案および評価指標案の検討の視点を踏まえて、再整理。

### ■地域のみなさまからのご意見(意見要旨)への「対応案」と「課題・目的」の関係 1/4

分類	対応案
M1 渋滞	(19) 幹線道路での渋滞緩和は、概略計画の検討において配慮すべき要素と認識しています
	(20) 国道16号や国道463号等の交通分散による渋滞緩和は、概略計画の検討において配慮すべき要素と認識しています
	(21) 東西方向の幹線道路が少ないことによる渋滞は、概略計画の検討において配慮すべき要素と認識しています
	(22) 企業等の進出による渋滞は、概略計画の検討において配慮すべき要素と認識しています
	(23) 岩槻ICや浦和IC周辺道路での渋滞は、概略計画の検討において配慮すべき要素と認識しています
	(24) 核都市広域幹線道路へのアクセス交通の集中による周辺道路の渋滞については、概略計画の検討において配慮すべき要素と認識しています
	(25) バスの定時性等の公共交通への影響については、概略計画の検討において配慮すべき要素と認識しています
M3 企業進出・人口増加	(31) 企業誘致による渋滞影響は、概略計画の検討において配慮すべき要素と認識しています
M4 生活環境	(35) 生活道路への大型車の通行抑制は、概略計画の検討において配慮すべき要素と認識しています
M7 観光	(46) 観光イベント時の渋滞緩和については、概略計画の検討において配慮すべき要素と認識しています
M9 その他、インフラ整備への要望・提案	(54) 複数のルート帯案について検討する段階で交通課題の解消や将来計画との整合など多様な視点で評価・検証します

#### 課題・目的

**【1.渋滞】**  
 幹線道路や主要道路の交通渋滞を緩和して移動の信頼性を高めるとともに、走行性を向上させる

※赤字：第2回地元検討会資料から追加した内容

## (2) 課題・目的と対応案の関係について

### ■ 地域のみなさまからのご意見(意見要旨)への「対応案」と「課題・目的」の関係 2/4

分類	対応案
M2 事故	(27)交通事故の減少は、概略計画の検討において配慮すべき要素と認識しています
	(28)交通分散による交通事故の変化は、概略計画の検討において配慮すべき要素と認識しています
M4 生活環境	(34)生活道路の抜け道交通減少による交通事故削減は、概略計画の検討において配慮すべき要素と認識しています
M9 その他、インフラ整備への要望・提案	(54)複数のルート帯案について検討する段階で交通課題の解消や将来計画との整合など多様な視点で評価・検証します



課題・目的
<b>【2.事故】</b> 幹線道路や生活道路の抜け道等から交通分散を促し、交通事故を減少させる

分類	対応案
M3 企業進出・人口増加	(29)大宮地区・さいたま新都心地区と浦和美園地区の連携強化による地域経済の発展は、概略計画の検討において配慮すべき要素と認識しています
	(30)埼玉新都心線と東北道の連絡による物流機能等の向上は、概略計画の検討において配慮すべき要素と認識しています
M9 その他、インフラ整備への要望・提案	(54)複数のルート帯案について検討する段階で交通課題の解消や将来計画との整合など多様な視点で評価・検証します



課題・目的
<b>【3.企業進出・人口増加・拠点間連携】</b> 大宮地区・さいたま新都心地区と美園地区の連携強化や、東北道等から企業等が集積する地域へのアクセス性の向上により、企業活動を支援する

分類	対応案
M4 生活環境	(33)生活道路の抜け道交通の減少は、概略計画の検討において配慮すべき要素と認識しています
	(36)生活道路の交通事故減少については、概略計画の検討において配慮すべき要素と認識しています
	(37)歩行者・自転車の安全性向上については、概略計画の検討において配慮すべき要素と認識しています
M9 その他、インフラ整備への要望・提案	(54)複数のルート帯案について検討する段階で交通課題の解消や将来計画との整合など多様な視点で評価・検証します



課題・目的
<b>【4.生活環境】</b> 沿線地域の抜け道交通を減少させることにより、安全性の向上、生活環境の改善を図る

## (2) 課題・目的と対応案の関係について

### ■ 地域のみなさまからのご意見(意見要旨)への「対応案」と「課題・目的」の関係 3/4

分類	対応案
M5 災害	(42)水害等による災害対応については、概略計画の検討において配慮すべき要素と認識しています
	(43)避難所へのアクセス性や災害時の救援支援については、概略計画の検討において配慮すべき要素と認識しています
	(44)外環道等の事故等による通行止め時の迂回機能については、概略計画の検討において配慮すべき要素と認識しています
M9 その他、インフラ整備への要望・提案	(54)複数のルート帯案について検討する段階で交通課題の解消や将来計画との整合など多様な視点で評価・検証します



課題・目的
<b>【5.災害】</b> 豪雨等の災害発生時における救援活動が円滑に行えるよう、緊急輸送道路ネットワークの形成や代替機能を図る

分類	対応案
M6 医療	(45)救急搬送の支援は、概略計画の検討において配慮すべき要素と認識しています
M9 その他、インフラ整備への要望・提案	(54)複数のルート帯案について検討する段階で交通課題の解消や将来計画との整合など多様な視点で評価・検証します



課題・目的
<b>【6.医療連携】</b> さいたま市内の高次医療施設へのアクセス機能の強化により、円滑な救急搬送を支援する

分類	対応案
M7 観光	(47)埼玉スタジアムやさいたまスーパーアリーナ等の観光施設等へのアクセス性については、概略計画の検討において配慮すべき要素と認識しています
M9 その他、インフラ整備への要望・提案	(54)複数のルート帯案について検討する段階で交通課題の解消や将来計画との整合など多様な視点で評価・検証します



課題・目的
<b>【7.観光】</b> さいたまスーパーアリーナや埼玉スタジアム等の観光施設へのアクセス性を高めることにより、観光産業を支援する

※赤字：第2回地元検討会資料から追加した内容

## (2) 課題・目的と対応案の関係について

### ■ 地域のみなさまからのご意見(意見要旨)への「対応案」と「課題・目的」の関係 4/4

分類	対応案
M8 見沼田圃の役割・活用	(50)見沼田圃をはじめ周辺地域の営農環境への影響については、概略計画の検討において配慮すべき要素と認識しています
	(51)見沼田圃をはじめ周辺地域の自然環境への影響については、概略計画の検討において配慮すべき要素と認識しています
	(52)自然環境や景観の保全については、概略計画の検討において配慮すべき要素と認識しています
M9 その他、インフラ整備への要望・提案	(54)複数のルート帯案について検討する段階で交通課題の解消や将来計画との整合など多様な視点で評価・検証します



課題・目的
<p><b>【8.営農・自然環境・景観】</b> 見沼田圃をはじめとした沿線地域の農業の営みを育むとともに、歴史的な遺産や自然環境、風致的に維持すべき景観に配慮する</p>

分類	対応案
M9 その他、インフラ整備への要望・提案	(54)複数のルート帯案について検討する段階で交通課題の解消や将来計画との整合など多様な視点で評価・検証します



課題・目的
<p><b>【9.沿道家屋や周辺施設等への影響】</b> 事業による沿道家屋や周辺施設等への影響や工事中に特に配慮すべき事項等を確認する</p>

分類	対応案
M9 その他、インフラ整備への要望・提案	(55) 複数のルート帯を検討する際に各ルートの概算事業費を確認します



課題・目的
<p><b>【10.経済性】</b> 事業費を確認する</p>

※赤字：第2回地元検討会資料から追加した内容

## 4. 第3回地元検討会の審議事項

## 4. 本地元検討会の審議事項

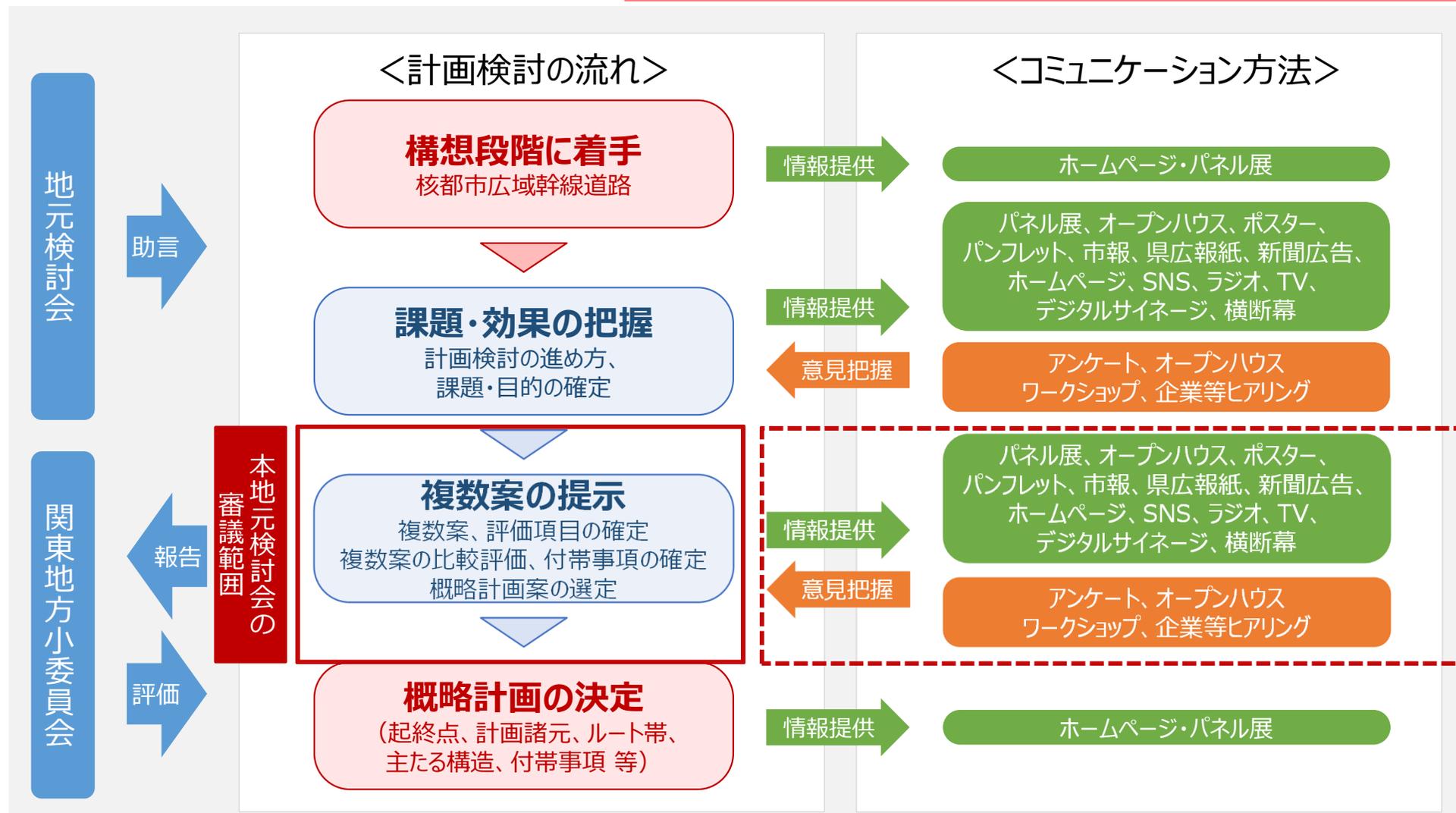
○今回の地元検討会では、以下の内容について審議する。

### 【審議事項】

複数案(ルート帯・主たる構造)、評価項目案、今後のコミュニケーション方法

### ■ 本地元検討会の審議の範囲

第2回地元検討会資料に複数案の提示後以降のコミュニケーション方法を追記



## 5. 核都市広域幹線道路の「複数案の提示」について

## 5. 複数案の提示および今後の進め方

- 地域のみなさまや道路を利用される方々へ再整理した「課題・目的」、「複数案」、「評価項目案」等についてご提示するとともに、ご意見を伺う。(今回の検討会)
- いただいたご意見を踏まえ、複数案について評価項目に基づき優位性を評価し「概略計画案」をご提示する。

### 今回の検討会

#### 課題・目的、複数案、評価項目案等の提示

- ・ 地域のみなさまや道路を利用される方々へ核都市広域幹線道路の「課題・目的」、「複数案」、複数案を比較評価するための「評価項目案」をご提示する。

#### 情報提供した内容に関する意見把握

- ・ 地域のみなさまや道路を利用される方々からアンケート、オープンハウス、ワークショップ等を通じて、ご提示した内容についてご意見を伺う。

#### 概略計画案の提示

- ・ いただいたご意見を踏まえ、複数案について評価項目に基づき優位性の評価を行い、今後の検討会において比較評価を行い「概略計画案」をご提示する。

## 5. 1 複数案(ルート帯・主たる構造)の 設定と評価項目の設定

# (1) 第2回 地元検討会で確定した課題・目的について

## 核都市広域幹線道路の課題・目的

※課題・目的について概略計画の検討に即して一部修正

### 【 1 .渋滞 】

幹線道路や主要道路の交通渋滞を緩和して移動の信頼性を高めるとともに、走行性を向上させる

### 【 2 .事故 】

幹線道路や生活道路の抜け道等から交通分散を促し、交通事故を減少させる

### 【 3 .企業進出・人口増加・拠点間連携 】

大宮地区・さいたま新都心地区と美園地区の連携強化や、東北道等から企業等が集積する地域へのアクセス性の向上により、企業活動を支援する

### 【 4 .生活環境 】

沿線地域の抜け道交通を減少させることにより、安全性の向上、生活環境の改善を図る

### 【 5 .災害 】

豪雨等の災害発生時における救援活動が円滑に行えるよう、緊急輸送道路ネットワークの形成や代替機能を図る

### 【 6 .医療連携 】

さいたま市内の高次医療施設へのアクセス機能の強化により、円滑な救急搬送を支援する

### 【 7 .観光 】

さいたまスーパーアリーナや埼玉スタジアム等の観光施設へのアクセス性を高めることにより、観光産業を支援する

### 【 8 .営農・自然環境・景観 】

見沼田圃をはじめとした沿線地域の農業の営みを育むとともに、歴史的な遺産や自然環境、風致的に維持すべき景観に配慮する

### 【 9 .沿道家屋や周辺施設等への影響 】

事業による沿道家屋や周辺施設等への影響や工事中に特に配慮すべき事項等を確認する

### 【 10 .経済性 】

事業費を確認する

# (1) 第2回 地元検討会 で確定した課題・目的について

○課題・目的は、第2回地元検討会でのご指摘や複数案および評価項目案の検討の視点を踏まえて再整理し、政策目標と配慮すべき事項に分類。

## ○政策目標

項目	課題・目的
1.渋滞	幹線道路や主要道路の交通渋滞を緩和して移動の信頼性を高めるとともに、走行性を向上させる
2.事故	幹線道路や生活道路の抜け道等から交通分散を促し、交通事故を減少させる
3.企業進出・人口増加・拠点間連携	大宮地区・さいたま新都心地区と美園地区の連携強化や、東北道等から企業等が集積する地域へのアクセス性の向上により、企業活動を支援する
4.生活環境	沿線地域の抜け道交通を減少させることにより、安全性の向上、生活環境の改善を図る
5.災害	豪雨等の災害発生時における救援活動が円滑に行えるよう、緊急輸送道路ネットワークの形成や代替機能を図る
6.医療連携	さいたま市内の高次医療施設へのアクセス機能の強化により、円滑な救急搬送を支援する
7.観光	さいたまスーパーアリーナや埼玉スタジアム等の観光施設へのアクセス性を高めることにより、観光産業を支援する

## ○配慮すべき事項

項目	課題・目的
8.営農・自然環境・景観	見沼田圃をはじめとした沿線地域の農業の営みを育むとともに、歴史的な遺産や自然環境、風致的に維持すべき景観に配慮する
9.沿道家屋や周辺施設等への影響	事業による沿道家屋や周辺施設等への影響や工事中に特に配慮すべき事項等を確認する
10.経済性	事業費を確認する

## (2) 道路計画の必要性

- 課題・目的を踏まえ、新たな道路を整備しない案を確認。
- 結果、渋滞や事故をはじめとした課題・目的の達成の見込みが低いことから、新たな道路計画が必要。

課題・目的		新たな道路を整備しない案	
政策目標	1.渋滞	幹線道路や主要道路の交通渋滞を緩和して移動の信頼性を高めるとともに、走行性及び定時性を向上させる	速達性は現状と変わらないため、 <b>幹線道路や主要道路の混雑緩和の見込みは低い</b>
	2.事故	幹線道路や生活道路の抜け道等から交通分散を促し、交通事故を減少させる	代替経路が確保されず、事故渋滞の発生状況は現状と変わらないため、 <b>渋滞を起因とした事故減少の見込みは低い</b>
	3.企業進出・人口増加・拠点間連携	大宮地区・さいたま新都心地区と美園地区の連携強化や、東北道等から企業等が集積する地域へのアクセス性の向上により、企業活動を支援する	周辺地域の道路ネットワークは変わらないため、 <b>大宮・さいたま新都心地区と美園地区間を結ぶ新たな交通軸は形成されない</b>
	4.生活環境	沿線地域の抜け道交通を減少させることにより、安全性の向上、生活環境の改善を図る	速達性は現状と変わらないため、 <b>生活道路に流入する抜け道交通の減少見込みは低い</b>
	5.災害	豪雨等の災害発生時における救援活動が円滑に行えるよう、緊急輸送道路ネットワークの形成や代替機能を図る	道路ネットワークは変わらないため、 <b>外環道や圏央道が通行止めになった時の代替路は形成されない</b>
	6.医療連携	さいたま市内の高次医療施設へのアクセス機能の強化により、円滑な救急搬送を支援する	さいたま市内の高次医療施設へのアクセス路は現状と変わらないため、 <b>速達性向上の見込みは低い</b>
	7.観光	さいたまスーパーアリーナや埼玉スタジアム等の観光施設へのアクセス性を高めることにより、観光産業を支援する	大規模イベント開催施設へのアクセス路は現状と変わらないため、 <b>アクセス性向上の見込みは低い</b>
配慮すべき事項	8.営農・自然環境・景観	見沼田圃をはじめとした沿線地域の農業の営みを育むとともに、歴史的な遺産や自然環境、風致的に維持すべき景観に配慮する	営農・自然環境や景観等への影響は現状と変わらない
	9.沿道家屋や周辺施設等への影響	事業による沿道家屋や周辺施設等への影響や工事中に特に配慮すべき事項等を確認する	沿道家屋や周辺施設等への影響は現状と変わらない 新たな道路整備に伴う工事中の影響は発生しない
	10.経済性	事業費を確認する	－

### 新たな道路計画が必要

※渋滞への対処として、TDM等の交通量の抑制施策があるが、災害等も含め大きな役割を担う外環道・主要道路等の交通量を勘案すれば、新たな道路を整備することなしの交通量の抑制施策では、災害等も含めた課題の解消は困難

※新たな道路を整備しない案は、複数案の設定において、比較評価のベースラインとして提示

### (3) 道路計画の必要性(道路の種別)

- 課題・目的を踏まえ、自動車専用道路案とそれ以外の道路案(道路の種別)を確認。
- 結果、渋滞や事故をはじめとした課題・目的の達成が期待できることから、核都市広域幹線道路に求められるサービスレベルは、埼玉県東西軸道路検討会(令和3年12月10日)のとおり、自動車専用道路が必要。

課題・目的		自動車専用道路以外の道路	自動車専用道路
政策目標	1.渋滞	沿線地域の主要道路(県道等)の交通渋滞緩和は期待できるが、幹線道路(国道16号等)の <b>交通渋滞緩和は期待できない</b>	幹線道路や主要道路の交通渋滞を緩和して移動の信頼性を高めるとともに、走行性を向上させ <b>定時性の向上が期待できる</b>
	2.事故	沿線地域の主要道路(県道等)や生活道路から交通分散を促し、交通事故は減少は期待できるが、幹線道路(国道16号等)の <b>交通事故の減少は期待できない</b>	代替経路が確保され、幹線道路、主要道路や生活道路の抜け道等から交通分散を促し、渋滞が緩和されることで渋滞を起因とする事故の減少が <b>交通事故を減少させることが期待できる</b>
	3.企業進出・人口増加・拠点間連携	大宮地区・さいたま新都心地区と美園地区の連携強化や、東北道等から企業等が集積する地域へのアクセス性の向上により、企業活動を支援する	大宮地区・さいたま新都心地区と美園地区の連携強化や、東北道等から企業等が集積する地域へのアクセス性の向上により、 <b>企業活動を支援することが期待できる</b>
	4.生活環境	沿線地域の抜け道交通を減少させることにより、安全性の向上、生活環境の改善を図る	沿線地域の抜け道交通を減少させることにより、 <b>安全性の向上、生活環境の改善を図ることが期待できる</b>
	5.災害	豪雨等の災害発生時における救援活動が円滑に行えるよう、緊急輸送道路ネットワークの形成や代替機能を図る	豪雨等の災害発生時における救援活動が円滑に行えるよう、 <b>緊急輸送道路ネットワークの形成や代替機能(迂回路)として機能する</b>
	6.医療連携	さいたま市内の高次医療施設へのアクセス機能の強化により、円滑な救急搬送を支援する	さいたま市内の高次医療施設への <b>速達性とアクセス性の向上により円滑な救急搬送を支援することが期待できる</b>
	7.観光	さいたまスーパーアリーナや埼玉スタジアム等の観光施設へのアクセス性を高めることにより、観光産業を支援する	さいたまスーパーアリーナや埼玉スタジアム等の <b>観光施設へのアクセス性を高めることにより、観光産業を支援することが期待できる</b>
配慮すべき事項	8.営農・自然環境・景観	見沼田圃をはじめとした沿線地域の農業の営みを育むとともに、歴史的な遺産や自然環境、風致的に維持すべき景観に配慮する	道路を新たに整備するため、見沼田圃や、歴史的な遺産、自然環境、風致的に維持すべき景観に <b>影響が生じる</b>
	9.沿道家屋や周辺施設等への影響	事業による沿道家屋や周辺施設等への影響や工事中に特に配慮すべき事項等を確認する	沿道の用地買収等が必要となるため、沿道家屋や周辺施設等に <b>影響が生じる</b>
	10.経済性	事業費を確認する	-



**自動車専用道路が必要**

## (4) 複数案を比較評価するための評価項目案について

○課題・目的を踏まえ、複数案を比較評価する評価項目案は、以下の14項目として整理。

課題・目的		評価項目案
政策目標	1. 渋滞	幹線道路や主要道路の交通渋滞を緩和して移動の信頼性を高めるとともに、走行性及び定時性を向上させる
	2. 事故	幹線道路や生活道路の抜け道等から交通分散を促し、交通事故を減少させる
	3. 企業進出・人口増加・拠点間連携	大宮地区・さいたま新都心地区と美園地区の連携強化や、東北道等から企業等が集積する地域へのアクセス性の向上により、企業活動を支援する
	4. 生活環境	沿線地域の抜け道交通を減少させることにより、安全性の向上、生活環境の改善を図る
	5. 災害	豪雨等の災害発生時における救援活動が円滑に行えるよう、緊急輸送道路ネットワークの形成や代替機能を図る
	6. 医療連携	さいたま市内の高次医療施設へのアクセス機能の強化により、円滑な救急搬送を支援する
	7. 観光	さいたまスーパーアリーナや埼玉スタジアム等の観光施設へのアクセス性を高めることにより、観光産業を支援する
配慮すべき事項	8. 営農・自然環境・景観	見沼田圃をはじめとした沿線地域の農業の営みを育むとともに、歴史的な遺産や自然環境、風致的に維持すべき景観に配慮する
	9. 沿道家屋や周辺施設等への影響	事業による沿道家屋や周辺施設等への影響や工事中に特に配慮すべき事項等を確認する
	10. 経済性	事業費を確認する

- ①外環道の混雑の緩和
- ②主要道路（国道16号、国道463号）の混雑の緩和
- ③沿線地域の主要道路（県道等）の混雑の緩和
- ④周辺地域の主要な道路における交通事故の減少
- ⑤大宮・さいたま新都心地区と美園地区を結ぶ交通軸の形成
- ⑥沿線地域の生活道路に流入する抜け道交通の減少
- ⑦外環道、圏央道の通行止め時の代替路
- ⑧さいたま市内の高次医療施設への速達性の向上
- ⑨大規模イベント開催施設へのアクセス性の向上
- ⑩営農環境への影響
- ⑪自然環境や景観等への影響
- ⑫沿道家屋や周辺施設等への影響
- ⑬工事中の影響
- ⑭事業費

## (5) 複数案(ルート帯・主たる構造)の考え方

○課題・目的を踏まえ、現道拡幅案、地下構造案、高架構造案を確認。

○結果、渋滞や事故をはじめとした課題・目的の達成が期待できることから、複数案は高架構造を主体とした道路を提示。

課題・目的		現道拡幅(周辺道路等を拡幅)	地下構造(自動車専用道路)	高架構造(自動車専用道路)
政策目標	1. 渋滞	△ 交通容量は増えるが、平面交差数は変わらず、地下構造や高架構造と比較して渋滞緩和への効果は小さく、走行性及び定時性の向上への効果は小さい	△ さいたま新都心線が橋梁で東北道を高架構造で跨ぐため、サグ構造※となり、渋滞が発生する可能性がある	○ 起点から終点まで高架構造のため、渋滞発生の可能性が少なく、走行性及び定時性の向上が期待できる
	2. 事故	△ 現道拡幅による交通事故の減少は期待できるが、平面交差数は変わらないため効果は小さい	△ サグ構造により速度低下が生じやすくなり、減速車輛への追突事故が懸念される	○ 起点から終点まで高架構造のため、渋滞に起因する事故の減少に期待できる
	3. 企業進出・人口増加・拠点間連携	△ 整備予定の核都市幹線道路の位置と比較した場合、東北道等から企業等が集積する地域へのアクセス性の向上への効果は小さい	○ 大宮地区・さいたま新都心地区と美園地区の連携強化や、東北道等から企業等が集積する地域へのアクセス性の向上により、企業活動を支援することが期待できる	
	4. 生活環境	△ 抜け道交通の減少が期待できるが、現道拡幅のため、地下構造や高架構造と比較して効果は小さい	○ 沿線地域の抜け道交通を減少させることにより、安全性の向上、生活環境の改善を図ることが期待できる	
	5. 災害	× 外環道や圏央道が通行止めになった時の代替路(迂回路)として機能しない	○ 豪雨等の災害発生時における救援活動が円滑に行えるよう、緊急輸送道路ネットワークの形成や代替機能(迂回路)として機能する	
	6. 医療連携	△ 平面交差数は変わらないため、地下構造や高架構造と比較して、円滑な救急輸送への効果が小さい	○ さいたま市内の高次医療施設へのアクセス性と速達性の向上により円滑な救急搬送を支援することが期待できる	
	7. 観光	× アクセスコントロールされないため旅行速度の向上が限定的となる	○ さいたまスーパーアリーナや埼玉スタジアム等の観光施設へのアクセス性を高めることにより、観光産業を支援することが期待できる	
配慮すべき事項	8. 営農・自然環境・景観	○ 地下水への影響がない △ 景観への影響は地下構造に比べ劣る	× 函渠等の施工に伴う地下水低下により、見沼田圃の作物の生育等に影響が想定される △ 地下構造の区間は景観への影響が小さい	△ 高架構造のため、地下構造と比較して地下水への影響が小さい × 田園風景のなかに橋梁が突出することで、景観への影響が想定される
	9. 沿道家屋や周辺施設等への影響	△ 現道沿線の全ての家屋の用地買収が必要  △ 交通規制・通行確保や舗装・掘削作業による騒音・振動対策が必要	△ 地下構造の起終点部付近は開削工法となるため、高架構造に比べ用地買収範囲が多くなる、地下構造物の地上部では区分地上権の設定が必要  △ 掘削作業による地盤への影響や掘削土搬出による騒音・振動対策、排水対策が必要	○ 現道拡幅や地下構造と比較して、家屋の用地買収範囲が小さい  △ 大型機械による架設時の騒音・振動、架設時の配慮が必要
	10. 経済性	△ 現道沿いに家屋が連続しており、用地買収費用が高くなる	× 高架構造に比べ、事業費が高くなる	○ 地下構造に比べ、事業費が安くなる

※サグ構造：勾配が上り方向へと次第に変化する区間

**複数案は高架構造を主体とした道路を提示**

# (6) 複数案(ルート帯・主たる構造)の考え方 (配慮すべき地域の資源・事項 1)

○沿線地域には、環境等への配慮が必要な見沼田圃をはじめ、住宅地が集中する地域や文化財、神社・仏閣、医療施設、文教施設等が点在。



土地利用	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆自然：見沼田圃、斜面林、貴重な地形・地質（緑のトラスト保全1号地）等</li> <li>◆社会環境：学校、病院等</li> <li>◆文化財等：天然記念物、遺跡、文化財、神社・仏閣等</li> <li>◆公共施設等：鉄道駅、浄水場、清掃センター等</li> </ul>	地形・地質・気象	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆主要河川（芝川・綾瀬川）</li> <li>◆脆弱地盤地域（見沼田圃）</li> </ul>
地域指定	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆指定区域（見沼自然公園）</li> <li>◆自然環境（見沼田圃 等）</li> </ul>	民間施設	◆その他民間施設（大規模工場、大規模物流施設）
		関連事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆「さいたま中央地区」ほ場整備事業</li> <li>◆その他大規模公共施設（浦和競馬・野田トレーニングセンター・南部配水場）</li> </ul>

# (6) 複数案(ルート帯・主たる構造)の考え方 (配慮すべき地域の資源・事項 2)

- 配慮が必要な見沼田圃、住宅地が集中する地域、ほ場整備事業等の公共施設を配慮すべき地域の資源・事項としてルート案を検討。
- 終点部については、道路構造令の基準のほか、「産業集積拠点」の開発や「地下鉄7号線延伸の中間駅周辺地区開発」等の地域の開発計画を考慮し、IC・JCT位置を設定。



# (7)複数案(ルート帯・主たる構造)の考え方

- 「課題・目的」に基づいた「複数案(ルート帯・主たる構造)の選定の視点」を踏まえ、複数案(ルート帯・主たる構造)を2案選定。
- 主たる構造については、求められるサービスレベルを満たし、地域への影響を抑えることを念頭に検討。

課題・目的		複数案(ルート帯・主たる構造)の選定の視点
政策目標	1.渋滞 ・幹線道路や主要道路の交通渋滞を緩和して移動の信頼性を高めるとともに、走行性を向上させる	・幹線道路の混雑が緩和するか ・沿線地域の主要道路の混雑が緩和するか
	2.事故 ・幹線道路や生活道路の抜け道等から交通分散を促し、交通事故を減少させる	・周辺地域の主要道路の交通事故減少するか
	3.企業進出・人口増加・拠点間連携 ・大宮地区・さいたま新都心地区と美園地区の連携強化や、東北道等から企業等が集積する地域へのアクセス性の向上により、企業活動を支援する	・大宮・さいたま新都心地区と美園地区間のアクセス性が向上するか
	4.生活環境 ・沿線地域の抜け道交通を減少させることにより、安全性の向上、生活環境の改善を図る	・生活道路を抜け道として用する交通が減少するか
	5.災害 ・豪雨等の災害発生時における救援活動が円滑に行えるよう、緊急輸送道路ネットワークの形成や代替機能を図る	・事故や災害時に幹線道路の代替路として機能するか
	6.医療連携 ・さいたま市内の高次医療施設へのアクセス機能の強化により、円滑な救急搬送を支援する	・さいたま市内の高次医療施設へのアクセス性が向上するか
	7.観光 ・さいたまスーパーアリーナや埼玉スタジアム等の観光施設へのアクセス性を高めることにより、観光産業を支援する	・主要な観光施設へのアクセス性が向上するか
配慮すべき事項	8.営農・自然環境・景観 ・見沼田圃をはじめとした沿線地域の農業の営みを育むとともに、歴史的な遺産や自然環境、風致的に維持すべき景観に配慮する	・見沼田圃等、配慮すべき資源等に影響が少ないか
	9.沿道家屋や周辺施設等への影響 ・事業による沿道家屋や周辺施設等への影響や工事中に特に配慮すべき事項等を確認する	・事業による沿道家屋や周辺施設等への影響が少ないか ・工事中の影響や工事中に特に配慮すべき事項があるか
	10.経済性 ・事業費を確認する	・事業費

複数案  
(ルート帯・主たる構造)

**案①**  
**北側ルート**  
(埼玉新都心線・さいたま見沼ICと東北道を最短で結ぶルート帯)

**案②**  
**南側ルート**  
(住宅地を極力回避した支障物件が少ないルート帯)

※新たな道路を整備しない案は、複数案の設定において、比較評価のベースラインとして提示

# (8)複数案(ルート帯・主たる構造)の概要

○課題・目的を達成するために考えられる複数案(ルート帯・主たる構造)を2案選定。



ルート帯案	ルート帯案の概要	主たる構造案
<p>案① 北側ルート</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・埼玉新都心線・さいたま見沼ICと東北道を最短で結ぶルート帯</li> <li>・比較の見沼田圃を通過する延長が短く、自然環境等の影響が抑えられる</li> </ul>	<p>核都市広域幹線道路</p> <p>車道幅員 25.5m</p> <p>3.25m 3.5m 3.75m 4.5m 3.75m 3.5m 3.25m</p> <p>路肩 車線 中央分離帯 車線 路肩</p>
<p>案② 南側ルート</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住宅地を極力回避した支障物件が少ないルート帯</li> <li>・比較的境界地域を通過する延長が短く、住居環境への影響を抑えられる</li> </ul>	

# (9)複数案と評価項目(案)



課題・目的	評価項目案※	案① 北側ルート	案② 南側ルート
政策目標	1.渋滞	①外環道の混雑の緩和 ②主要道路（国道16号、国道463号）の混雑の緩和 ③沿線地域の主要道路（県道等）の混雑の緩和	・外環道の交通が転換し、外環道の混雑が緩和する ・国道16号や国道463号の交通が転換し、混雑が緩和する ・県道さいたま春日部線等の東西方向に連絡する周辺主要道路の交通が転換し、混雑が緩和する
	2.事故	④周辺地域の主要な道路における交通事故の減少	・国道16号や国道463号の交通が転換し、事故が減少する
	3.企業進出・人口増加・拠点間連携	⑤大宮・さいたま新都心地区と美園地区を結ぶ交通軸の形成	・大宮・さいたま新都心地区と美園地区を結ぶ自動車専用道路のネットワークが形成
	4.生活環境	⑥沿線地域の生活道路に流入する抜け道交通の減少	・県道さいたま春日部線等の東西方向に連絡する周辺主要道路の交通が転換し、混雑が緩和する ・それにより、沿線地域の生活道路に流入する抜け道交通が周辺主要道路に転換し、生活道路の抜け道交通が減少する
	5.災害	⑦外環道、圏央道の通行止め時の代替路	・外環道、圏央道が事故等で通行止めの場合に代替路として機能する
	6.医療連携	⑧さいたま市内の高次医療施設への速達性の向上	・美園地区から、さいたま赤十字病院等の高次医療施設への所要時間が短縮するため、救急医療活動を支援する
	7.観光	⑨大規模イベント開催施設へのアクセス性の向上	・さいたまスーパーアリーナや埼玉スタジアム等の大規模イベント施設へのアクセス性が向上する
配慮すべき事項	8.営農・自然環境・景観	⑩営農環境への影響 ⑪自然環境や景観等への影響	・さいたま見沼ICから見沼田圃を通過する延長が案②に比べて短いため、営農環境への影響が案②より小さい ・さいたま見沼ICから見沼田圃を通過する延長が案②に比べて短いため、自然環境や景観、文化財等への影響が案②より小さい
	9.沿道家屋や周辺施設等への影響	⑫沿道家屋や周辺施設等への影響	・案②に比べ住宅地が多く、大宮共立病院や浦和競馬・野田トレーニングセンターが立地する地域を通過するため、案②より影響は大きい
		⑬工事中の影響	・東北道JCT周辺整備時に市道3502線の橋梁（新切橋）の架け替えが必要となるが、工事に支障となる物が案②に比べて少ないため、案②より影響が小さい
	10.経済性	⑭事業費	2,600～2,700億円

※評価項目案は「複数案の提示」で行うコミュニケーション活動での意見を反映し、修正・確定する。

## 5. 2 今後のコミュニケーション方法(案)

# (1) コミュニケーション活動の内容

- 「課題・効果の把握」において確定した計画検討の進め方および課題・目的を提示。
- 「複数案の提示」において、複数案（ルート帯・主たる構造）および評価項目案を提示。
- 提示した複数案（ルート帯・主たる構造）および評価項目案に対し、「複数案を比較評価する際の重視・配慮すべき項目」についての意見を伺う。その後、伺った意見を踏まえて、地域の皆さまの多くが重視すべきと考える評価項目案をより満足するルート帯を選定。

## 情報提供

課題・効果の把握

- ・計画検討の進め方
- ・課題・目的

複数案の提示

- ・複数案（ルート帯・主たる構造）
- ・評価項目案

## 意見把握

- 令和5年度コミュニケーション活動で実施済み
- ・計画検討の進め方
- ・課題・目的

- 令和7年度コミュニケーション活動で実施
- ・複数案（ルート帯・主たる構造）について
- ・複数案を比較評価する際の重視・配慮すべき項目

いただいたご意見を踏まえて...

- ・複数案について評価項目に基づき優位性を評価し「概略計画案」に反映

# (2) 情報提供の内容 1/3

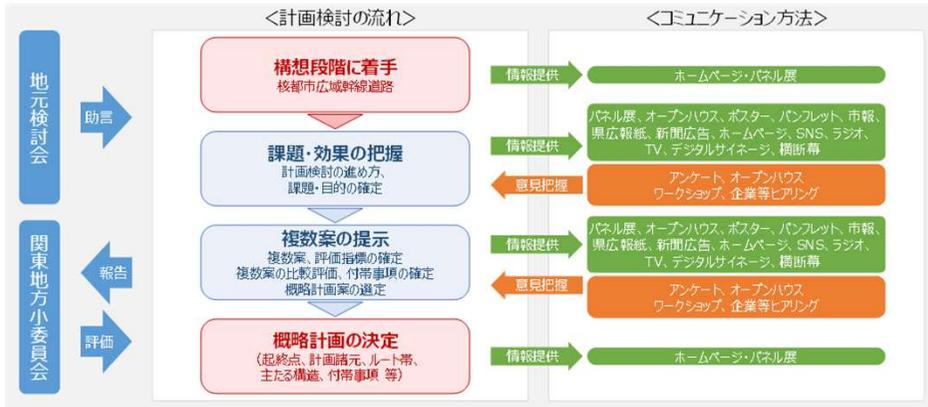
## ■「複数案の提示」における情報提供 —ポータルサイト 1/3—

### 計画検討の進め方

・「計画検討の進め方（基本的事項）」および「計画検討の進め方（細目）」は、『課題効果の把握』のコミュニケーションを通して、みなさまから寄せられたご意見に基づいて検討を重ね、地元検討会の審議を経て、確定したものです。

### 「計画検討の進め方（基本的事項）」

- 核都市広域幹線道路の計画検討は、『課題・効果の把握』、『複数案の提示』の順に検討を進め、検討成果を確定する。『複数案の提示』においては、『課題・効果の把握』における確定事項を前提とします。
- 各検討では、様々な方法で地域のみなさまとのコミュニケーションを重ね、地域の意見や地元検討会からの助言を踏まえながら検討します。
- 計画検討では、核都市広域幹線道路の概略計画の基礎となる概略計画案を定めます。
- 概略計画案を基礎としつつ、社会資本整備審議会道路分科会関東地方小委員会の審議を経て概略計画を定める。概略計画は、起終点やルート帯（数百メートル程度の幅を持ち、道路用地境界を定めない）、付帯事項などを定める計画であり、都市計画（1/2500の図で示される詳細な計画）の前提となる計画です。



### 課題・目的

・「課題・目的」は、『課題・効果の把握』のコミュニケーションを通して、みなさまから寄せられたご意見に基づいて検討を重ね、地元検討会の審議を経て、確定したものです。

### 「課題・目的」の検討経緯

- ・『課題・効果の把握』のコミュニケーションでは7つの「課題・目的」をお示しし、みなさまからご意見をいただきました。
- ・第2回地元検討会では、みなさまからのご意見を踏まえて、7つの「課題・目的」に「営農・自然環境・景観」と「効果発現」の2つを新たに追加しました。
- ・第3回地元検討会では、第2回地元検討会での指摘や複数案の検討の視点を踏まえて、「課題・目的」を再整理しました。
  - 「効果発現」は「渋滞」～「観光」の内容に含まれるため削除しました。
  - 「企業進出・人口増加」は「拠点間連携」の視点を追加するため、「企業進出・人口増加・拠点間連携」に修正しました。
  - 複数案を検討するうえで、「沿道家屋や周辺施設等への影響」と「経済性」が必要となったため追加しました。

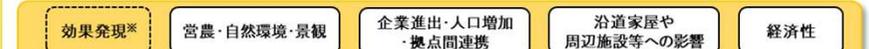
### ■『課題・効果の把握』のコミュニケーションでお示した「課題・目的」（7つ）



### ■第2回地元検討会で新たに追加した「課題・目的」（2つ）



### ■第3回地元検討会で再整理した「課題・目的」



※「効果発現」は「渋滞」～「観光」の内容に含まれるため削除

### 「課題・目的（確定版）」



# (2) 情報提供の内容 2/3

## ■「複数案の提示」における情報提供 –ポータルサイト 2/3–

○課題・目的を達成するために考えられる複数案(ルート帯・主たる構造)を2案選定。



ルート帯案	ルート帯案の概要	主たる構造案
案① 北側ルート	<ul style="list-style-type: none"> <li>埼玉新都心線・さいたま見沼ICと東北道を最短で結ぶルート帯</li> <li>比較の見沼田圃を通過する延長が短く、自然環境等の影響が抑えられる</li> </ul>	<p>核都市広域幹線道路</p> <p>車道幅員 25.5m</p> <p>3.25m 3.5m 3.75m 4.5m 3.75m 3.5m 3.25m</p> <p>路肩 車線 車線 中央分離帯 車線 車線 路肩</p>
案② 南側ルート	<ul style="list-style-type: none"> <li>住宅地を極力回避した支障物件が少ないルート帯</li> <li>比較的生活地域を通過する延長が短く、生活環境への影響を抑えられる</li> </ul>	

# (2) 情報提供の内容 3/3

## ■「複数案の提示」における情報提供 —ポータルサイト 3/3—



課題・目的		評価項目案*	案① 北側ルート	案② 南側ルート
政策目標	1. 渋滞	①外環道の混雑の緩和	・外環道の交通が転換し、外環道の混雑が緩和する	
		②主要道路(国道16号、国道463号)の混雑の緩和	・国道16号や国道463号の交通が転換し、混雑が緩和する	
		③沿線地域の主要道路(県道等)の混雑の緩和	・県道さいたま春日部線等の東西方向に連絡する周辺主要道路の交通が転換し、混雑が緩和する	
	2. 事故	④周辺地域の主要な道路における交通事故の減少	・国道16号や国道463号の交通が転換し、事故が減少する	
	3. 企業進出・人口増加・拠点間連携	⑤大宮・さいたま新都心地区と美園地区を結ぶ交通軸の形成	・大宮・さいたま新都心地区と美園地区を結ぶ自動車専用道路のネットワークが形成	
	4. 生活環境	⑥沿線地域の生活道路に流入する抜け道交通の減少	・県道さいたま春日部線等の東西方向に連絡する周辺主要道路の交通が転換し、混雑が緩和する ・それにより、沿線地域の生活道路に流入する抜け道交通が周辺主要道路に転換し、生活道路の抜け道交通が減少する	
	5. 災害	⑦外環道、圏央道の通行止め時の代替路	・外環道、圏央道が事故等で通行止めの場合に代替路として機能する	
配慮すべき事項	8. 営農・自然環境・景観	⑧さいたま市内の高次医療施設への到達性の向上	・美園地区から、さいたま赤十字病院等の高次医療施設への所要時間が短縮するため、救急医療活動を支援する	
		⑨大規模イベント開催施設へのアクセス性の向上	・さいたまスーパーアリーナや埼玉スタジアム等の大規模イベント施設へのアクセス性が向上する	
	9. 沿道家屋や周辺施設等への影響	⑩営農環境への影響	・さいたま見沼ICから見沼田園を通過する延長が案②に比べて短いため、営農環境への影響が案②より小さい	・さいたま見沼ICから見沼田園を通過する延長が案①に比べて長いため、営農環境への影響が案①より大きい
		⑪自然環境や景観等への影響	・さいたま見沼ICから見沼田園を通過する延長が案②に比べて短いため、自然環境や景観、文化財等への影響が案②より小さい	・さいたま見沼ICから見沼田園を通過する延長が案①に比べて長く、見沼田園地域に近いため、自然環境や景観、文化財等への影響が案①より大きい
	10. 経済性	⑫沿道家屋や周辺施設等への影響	・案②に比べ住宅地が多く、大宮共立病院や浦和競馬・野田トレーニングセンターが立地する地域を通過するため、案②より影響は大きい	・案①に比べ住宅地が少ない地域を通過するため、案①より影響は小さい
		⑬工事中の影響	・東北道JCT周辺整備時に市道3502線の橋梁(新切橋)の架け替えが必要となるが、工事に支障となる物が案②に比べて少ないため、案②より影響が小さい	・東北道JCT周辺整備時に県道新方須賀さいたま線の橋梁(高畑陸橋)架け替え、および南部配水場が立地する地域を通過し、工事にあたり、送水管の仮設が必要となり、工事に支障となる物が案①に比べて多いため、案①より影響が大きい
		⑭事業費	2,600~2,700億円	2,800~2,900億円

\*評価項目案は「複数案の提示」で行うコミュニケーション活動での意見を反映し、修正・確定する。

# (3) 意見把握の内容 1/4

## ■「複数案の提示」における意見把握の調査票(案) —アンケート 1/4—

(説明)
1

**●はじめに**

- 平素より、道路行政にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。
- 核都市広域幹線道路（埼玉新都心線～東北道付近）※1は、圏央道と東京外かく環状道路の概ね中間に位置する道路として計画されています。
- 当該道路整備の計画検討にあたり、複数案（ルート・主たる構造）を示し、複数案の評価項目案について、地域のみなさまにご意見を伺っているところです。
- みなさまのご意見を踏まえ、概略計画の検討を進めていきます。
- ご多忙の折、大変恐縮ではありますが、本調査へのご協力をお願い申し上げます。ご回答いただいた内容につきましては、統計的な処理を行い、個人を特定できない情報として、核都市広域幹線道路の複数案、評価項目案の検討に限り使用します。

注) 回答は一人1回でお願いします。

**■事務局**  
 国土交通省 関東地方整備整備局 大宮国道事務所 計画課  
 埼玉県 県土部 県土整備政策課  
 さいたま市 建設局 土木部 広域道路推進室

**■事業概要**  
 詳しくは、以下のポータルサイトをご参照ください。  
 → 核都市広域幹線道路（埼玉新都心線～東北道付近）ポータルサイト  
[https://www.ktr.mlit.go.jp/oomiya/oomiya\\_index070.html](https://www.ktr.mlit.go.jp/oomiya/oomiya_index070.html)

※1 本アンケートでは、「核都市広域幹線道路」と言います。

**●核都市広域幹線道路（埼玉新都心線～東北道付近） 広域道路図**

(説明)
2

**●本アンケートの位置づけ**

・本アンケートは、以下に示す核都市広域幹線道路の計画検討の進め方のうち、「複数案の提示」におけるアンケートに該当します。

＜計画検討の流れ＞

**構想段階に着手**  
核都市広域幹線道路

**課題・効果の把握**  
計画検討の進め方、課題・目的の確定

**複数案の提示**  
複数案、評価項目の確定  
複数案の比較評価、付帯事項の確定  
概略計画案の選定

**概略計画の決定**  
起終点、計画諸元、ルート帯、主たる構造、付帯事項等

＜コミュニケーション方法＞

情報提供 → ホームページ・パネル展

情報提供 → パネル展、オープンハウス、ポスター、パンフレット、市報、県広報紙、新聞広告、ホームページ、SNS、ラジオ、TV、デジタルサイネージ、横断幕

**意見把握 ←** アンケート、オープンハウス  
ワークショップ、企業等ヒアリング

情報提供 → パネル展、オープンハウス、ポスター、パンフレット、市報、県広報紙、新聞広告、ホームページ、SNS、ラジオ、TV、デジタルサイネージ、横断幕

**意見把握 ←** アンケート、オープンハウス  
ワークショップ、企業等ヒアリング

情報提供 → ホームページ・パネル展

**本アンケート**

・本アンケートでお伺いすることは、下記の2点です。回答時間の目安は約●～●分です。

**お伺いすること**

- ・複数案を比較評価する際の重視すべき評価項目案

**お問い合わせ先**

国土交通省 関東地方整備局 大宮国道事務所 計画課 : TEL 048-669-1205  
 埼玉県 県土整備部 県土整備政策課 : TEL 048-830-5025  
 さいたま市 建設局 土木部 広域道路推進室 : TEL 048-829-1501

**アンケート実施期間**

・令和●年●月●日(●)～令和●年●月●日(●)

**回答方法 ( ①・②のどちらかでご回答ください )**

①「ハガキ」で回答する場合 … 同封のハガキにご回答いただき、ポストへ投函してください。  
 ②「Web」で回答する場合 … 右記のQRコードから質問にご回答いただき、送信してください。 →

**補足事項**

- ・ご意見を回答いただく際には、その意見の理由についてもご記入ください。
- ・お寄せいただいたご意見は、関心事（期待や懸念、留意すべき点など）に着目してとりまとめ、少数の意見もしっかり捉えるため、意見数の多寡にとらわれず整理します。
- ・ご回答時に、個人情報（氏名、住所、電話番号、Emailアドレス等）については記載はしないようにお願いします。

※本事業は、環境影響評価法（平成9年法律第81号）に基づく計画段階環境配慮書（配慮書）の対象事業となるため、この意見聴取は環境影響評価法に基づく配慮書の案についての意見聴取の手続きを兼ねています。

# (3) 意見把握の内容 2/4

## ■「複数案の提示」における意見把握の調査票(案) —アンケート 2/4—

核都市 1. 複数案 (ルート帯・主たる構造) の考え方
3

・「課題・目的」に基づいた「複数案 (ルート帯・主たる構造) の選定の視点」を踏まえ、複数案 (ルート帯・主たる構造) を2案選定しました※1。

※1: 案①、案②は、最終決定したものではありません。地域のみなさまのご意見を踏まえて修正される可能性があります。

	課題・目的	複数案 (ルート帯・主たる構造) の選定の視点	複数案 (ルート帯・主たる構造)	
政策目標	1. 渋滞	・幹線道路や主要道路の交通渋滞を緩和して移動の信頼性を高めるとともに、走行性を向上させる	・幹線道路の混雑が緩和するか ・沿線地域の主要道路の混雑が緩和するか	<div style="border: 2px solid blue; padding: 10px; color: blue; font-weight: bold;">                     案①                      北側ルート                      (埼玉新都心線・さいたま見沼ICと東北道を最短で結ぶルート帯)                 </div>
	2. 事故	・幹線道路や生活道路の抜け道等から交通分散を促し、交通事故を減少させる	・周辺地域の主要道路の交通事故減少するか	
	3. 企業進出・人口増加・拠点間連携	・大宮地区・さいたま新都心地区と美園地区の連携強化や、東北道等から企業等が集積する地域へのアクセス性の向上により、企業活動を支援する	・大宮・さいたま新都心地区と美園地区間のアクセス性が向上するか	
	4. 生活環境	・沿線地域の抜け道交通を減少させることにより、安全性の向上、生活環境の改善を図る	・生活道路を抜け道として用する交通が減少するか	
	5. 災害	・豪雨等の災害発生時における救援活動が円滑に行えるよう、緊急輸送道路ネットワークの形成や代替機能を図る	・事故や災害時に幹線道路の代替路として機能するか	
	6. 医療連携	・さいたま市内の高次医療施設へのアクセス機能の強化により、円滑な救急搬送を支援する	・さいたま市内の高次医療施設へのアクセス性が向上するか	
	7. 観光	・さいたまスーパーアリーナや埼玉スタジアム等の観光施設へのアクセス性を高めることにより、観光産業を支援する	・主要な観光施設へのアクセス性が向上するか	
配慮すべき事項	8. 当農・自然環境・景観	・見沼田圃をはじめとした沿線地域の農業の営みを育むとともに、歴史的な遺産や自然環境、風致的に維持すべき景観に配慮する	・見沼田圃等、配慮すべき資源等に影響が少ないか	<div style="border: 2px solid magenta; padding: 10px; color: magenta; font-weight: bold;">                     案②                      南側ルート                      (住宅地を極力回避した支障物件が少ないルート帯)                 </div>
	9. 沿道家屋や周辺施設等への影響	・事業による沿道家屋や周辺施設等への影響や工事中に特に配慮すべき事項を確認する	・事業による沿道家屋や周辺施設等への影響が少ないか ・上事中的影響や上事中に特に配慮すべき事項があるか	
	10. 経済性	・事業費を確認する	・事業費	

核都市 2. 複数案(ルート帯・主たる構造)・評価項目案について
4

・核都市広域幹線道路の**ルート帯案**は、地域のみなさまからのご意見を踏まえ、以下の2案を選定しました※1。

※1: 案①、案②は、最終決定したものではありません。地域のみなさまのご意見を踏まえて修正される可能性があります。

**ルート帯案**

案①	北側ルート	埼玉新都心線・さいたま見沼ICと東北道を最短で結ぶルート帯
案②	南側ルート	住宅地を極力回避した支障物件が少ないルート帯

**主たる構造案**

**核都市広域幹線道路**

車道幅員 25.5m

3.25m	3.5m	3.75m	4.5m	3.75m	3.5m	3.25m
路肩	車線	車線	中央分離帯	車線	車線	路肩

# (3) 意見把握の内容 3/4

## 「複数案の提示」における意見把握の調査票(案) —アンケート 3/4—

**核都市 3. 核都市広域幹線道路の複数案の評価項目案について** 5

・「課題・目的」をもとに、複数案を比較評価する評価項目案を設定し、案①、案②を下記のとおり比較評価しました※1・2・3。

※1：案①、案②、評価項目案は、最終決定したものではありません。地域のみなさまのご意見を踏まえて修正される可能性があります。  
 ※2：評価項目案を設定する過程の詳細については、[ポータルサイト](#)をご参照ください。  
 ※3：案①、案②を比較評価した結果は、今後検討するものであり、現時点では参考提示になります。

課題・目的	評価項目案	案① 北側ルート	案② 南側ルート
1. 渋滞	① 外環道の混雑の緩和	・外環道の交通が転換し、外環道の混雑が緩和する	
	② 主要道路（国道16号、国道463号）の混雑の緩和	・国道16号や国道463号の交通が転換し、混雑が緩和する	
	③ 沿線地域の主要道路（県道等）の混雑の緩和	・県道さいたま春日部線等の東西方向に連絡する周辺主要道路の交通が転換し、混雑が緩和する	
2. 事故	④ 周辺地域の主要な道路における交通事故の減少	・国道16号や国道463号の交通が転換し、事故が減少する	
3. 企業進出・人口増加・拠点間連携	⑤ 大宮・さいたま新都心地区と美園地区を結ぶ交通軸の形成	・大宮・さいたま新都心地区と美園地区を結ぶ自動車専用道路のネットワークが形成	
4. 生活環境	⑥ 沿線地域の生活道路に流入する抜け道交通の減少	・県道さいたま春日部線等の東西方向に連絡する周辺主要道路の交通が転換し、混雑が緩和する ・それにより、沿線地域の生活道路に流入する抜け道交通が周辺主要道路に転換し、生活道路の抜け道交通が減少する	
5. 災害	⑦ 外環道、圏央道の通行止め時の代替路	・外環道、圏央道が事故等で通行止めの場合に代替路として機能する	
6. 医療連携	⑧ さいたま市内の高次医療施設への速達性の向上	・美園地区から、さいたま赤十字病院等の高次医療施設への所要時間が短縮するため、救急医療活動を支援する	
7. 観光	⑨ 大規模イベント開催施設へのアクセシビリティの向上	・さいたまスーパーアリーナや埼玉スタジアム等の大規模イベント施設へのアクセシビリティが向上する	
8. 営農・自然環境・景観	⑩ 営農環境への影響	・さいたま見沼ICから見沼田圃を通過する延長が案②に比べて短いため、営農環境への影響が案②より小さい	・さいたま見沼ICから見沼田圃を通過する延長が案①に比べて長いため、営農環境への影響が案①より大きい
	⑪ 自然環境や景観等への影響	・さいたま見沼ICから見沼田圃を通過する延長が案②に比べて短いため、自然環境や景観、文化財等への影響が案②より小さい	・さいたま見沼ICから見沼田圃を通過する延長が案①に比べて長く、見沼田圃地域に近いため、自然環境や景観、文化財等への影響が案①より大きい
9. 沿道家屋や周辺施設等への影響	⑫ 沿道家屋や周辺施設等への影響	・案②に比べ住宅地が多く、大宮共立病院や浦和競馬・野田トレーニングセンターが立地する地域を通過するため、案②より影響は大きい	・案①に比べ住宅地が少ない地域を通過するため、案①より影響は小さい
	⑬ 工事中的影響	・東北道JCT周辺整備時に市道3502線の橋梁（新切橋）の架け替えが必要となるが、工事に支障となる物が案②に比べて少ないため、案②より影響が小さい	・東北道JCT周辺整備時に県道新方須賀さいたま線の橋梁（高畑陸橋）架け替え、および南部配水場が立地する地域を通過し、工事にあたり、送水管の仮移設が必要となり、工事に支障となる物が案①に比べて多いため、案①より影響が大きい
10. 経済性	⑭ 事業費	2,600～2,700億円	2,800～2,900億円

**核都市 4. 複数案を比較評価する際の重視・配慮すべき項目** 6

**設問 1 重視すべき項目**

**(1) 核都市広域幹線道路のルート帯案を比較評価する際に、なにを重視すべきと思いますか。（以下の①～⑨の項目について、4段階評価してください）**

課題・目的	評価項目案*	強く思う	どちらかというそう思う	どちらかというそう思わない	全くそう思わない
1. 渋滞	① 外環道の混雑の緩和	○	○	○	○
	② 主要道路（国道16号、国道463号）の混雑の緩和	○	○	○	○
	③ 沿線地域の主要道路（県道等）の混雑の緩和	○	○	○	○
2. 事故	④ 周辺地域の主要な道路における交通事故の減少	○	○	○	○
3. 企業進出・人口増加・拠点間連携	⑤ 大宮・さいたま新都心地区と美園地区を結ぶ交通軸の形成	○	○	○	○
4. 生活環境	⑥ 沿線地域の生活道路に流入する抜け道交通の減少	○	○	○	○
5. 災害	⑦ 外環道、圏央道の通行止め時の代替路	○	○	○	○
6. 医療連携	⑧ さいたま市内の高次医療施設への速達性の向上	○	○	○	○
7. 観光	⑨ 大規模イベント開催施設へのアクセシビリティの向上	○	○	○	○

**(2) (1)の他に考えられる重視すべき項目がありましたら、お書きください。また、4段階評価してください。**

回答欄（自由記述式、字数制限100文字）

評価項目案*	強く思う	どちらかというそう思う	どちらかというそう思わない	全くそう思わない
⑩ ご回答いただいた項目	○	○	○	○

**(3) (1)の項目およびその他考えられる重視すべき項目について、具体的にお書きください。**

回答欄（自由記述式、字数制限100文字）

※ 評価項目案は、最終決定したものではありません。みなさんのご意見を踏まえて修正される可能性があります。



## (4) コミュニケーション方法(案) 1/3

### ■ 地域のみなさまへの情報提供の概要 1/2

周知方法	周知対象	概要	実施箇所	実施期間
パネル展	主に沿線地域の住民	<ul style="list-style-type: none"> <li>埼玉県庁、さいたま市区役所などでパネルを展示。</li> <li>検討の進め方や課題・目的、複数案（ルート帯・主たる構造）、評価項目案の情報提供。</li> <li>意見把握の実施について情報を提供。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>埼玉県庁、さいたま市区役所、道の駅などに展示</li> </ul>	令和7年 8月下旬頃～
オープンハウス		<ul style="list-style-type: none"> <li>さいたま市区役所などでオープンハウスを行い、パネルを展示。</li> <li>検討の進め方や課題・目的、複数案（ルート帯・主たる構造）、評価項目案について情報を提供。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>さいたま市区役所（見沼区・緑区・岩槻区）など</li> </ul>	令和7年10月頃～ 11月頃
ポスター パンフレット 市報 県広報紙		<ul style="list-style-type: none"> <li>大宮国道事務所、さいたま市区役所、集客施設などに、ポスター、パンフレットを設置して周知。</li> <li>検討の進め方や課題・目的、複数案（ルート帯・主たる構造）、評価項目案について情報を提供。</li> <li>意見聴取の実施について情報を提供。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大宮国道事務所やさいたま市区役所（本庁、見沼・緑・岩槻区）、集客施設など</li> <li>市報はさいたま市民へ全戸配布</li> </ul>	令和7年 8月下旬頃～ ポスター・パンフレット 令和7年10月頃 市報・県広報誌

# (4) コミュニケーション方法(案) 2/3

## ■ 地域のみなさまへの情報提供の概要 2/2

周知方法	周知対象	概要	実施箇所	実施期間
新聞広告	主に沿線地域外の住民	・地元新聞で広告を掲載して、意見聴取の実施について情報を提供。	・地元新聞	令和7年10月頃
ホームページ、SNS (X、YouTube広告など)		・国道事務所、埼玉県、さいたま市のホームページやSNS (X)、YouTube広告などに記事を掲載。 ・「課題・目的の把握」における意見聴取の結果や、「複数案の提示」で検討する複数案（ルート帯・主たる構造）、評価項目案について情報を提供。 ・意見聴取の実施について情報を提供。	・大宮国道事務所、埼玉県、さいたま市	令和7年8月下旬頃～
ラジオ・TV		・地元ラジオなどで宣伝を流して、意見聴取の実施について情報を提供。	・地元ラジオ ・地元TV	令和7年10月頃
デジタルサイネージ	主に沿線地域の住民	・国道事務所やさいたま市区役所などのデジタルサイネージで画像を流す。 ・意見聴取の実施などについて情報を提供。	・大宮国道事務所 ・さいたま市区役所など	令和7年8月下旬頃～
横断幕		・さいたま市周辺の東北自動車道、国道16号、国道298号、国道463号などの歩道橋に横断幕を設置。 ①概略ルート・構造の検討の実施について情報を提供。（R6年度実施） ②複数案の提示などについて情報を提供。（R7年度予定）	・東北自動車道 : 2箇所 ・国道16号/298号 : 各5箇所 ・国道463号 : 2箇所	①令和6年6月頃～ ②令和7年8月下旬頃～

# (4) コミュニケーション方法(案) 3/3

## ■ 地域のみなさまからの意見把握の概要

分類	実施対象	概要	意見聴取内容	実施箇所等	実施期間
アンケート	沿線地域の住民	沿線地域住民を無作為に抽出し、 <u>調査票の郵送配布、返信はがき回収により意見を聴取</u> 集客施設などに <u>返信はがきを留め置きし、返信はがき回収により意見を聴取</u> 幅広い回答を得るため、SNSによるWebアンケートも活用し意見を聴取	<p>・「複数案の提示」で検討する複数案（ルート帯・主たる構造）や評価項目案についての意見を把握。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・さいたま市見沼区、緑区、岩槻区住民（無作為抽出）へ調査票郵送配布、返信はがき回収</li> <li>・さいたま市外のS A・P A、道の駅</li> <li>・Webサイト</li> </ul>	令和7年8月頃～ 11月頃
オープンハウス	沿線地域外の住民	さいたま市区役所などでオープンハウスを開催し、調査票に基づいて意見を聴取		さいたま市区役所（見沼区、緑区、岩槻区）など	令和7年10月頃～ 11月頃
ワークショップ		さいたま市区役所などでワークショップを開催し、議題を提示して複数のグループ毎に意見交換 主婦層や企業関係者等の多様な方が参加できるような開催時間を想定		さいたま市区役所（見沼区、緑区、岩槻区）など	令和7年11月頃
企業等ヒアリング	詳細に意見を把握する必要のある見沼田圃の関係者	見沼田圃の関係者に対して、ヒアリングを行い、意見を聴取。		見沼田圃の関係者との個別意見交換会など	令和7年8月頃～

## 6. 今後の検討会の進め方、スケジュール(案)

# 6. 今後の検討会の進め方、スケジュール(案)

○今後、住民のみなさまや道路利用者の方と「複数案の提示」についてコミュニケーションを図る。  
 ○頂いたご意見を踏まえて、複数案を比較評価し、概略計画案をとりまとめる。

## ■今後の検討会の進め方、スケジュール(案)

